協働のまちづくり 次なる進化への挑戦～単位町内会の活性化～（案）

令和元年９月９日
アイティデザイン研究所 逢坂信治

背景

中心市街地は高齢化が進み、空き家が目立ち、また単位町内会では会員の減少、役員の高齢化やなり手が居ず、その活動は停滞し繰り越し金残高ばかりが増える状況にあります。中心市街地のコミニュティ活動は今空白状態に有り、地域の生活に不安・不満が募っています。

北見市の 2040 年の人口は 97 千人ほどと推計され、現在より約２万人減少します。労働人口が急減し、高齢者ばかりが増加する「縮みの社会」の出現が予想されます。

北見市が進めている「地域住民協働組織」は、周辺部での組織化は進みましたが中心市街地での展開は難しい局面を迎えています。

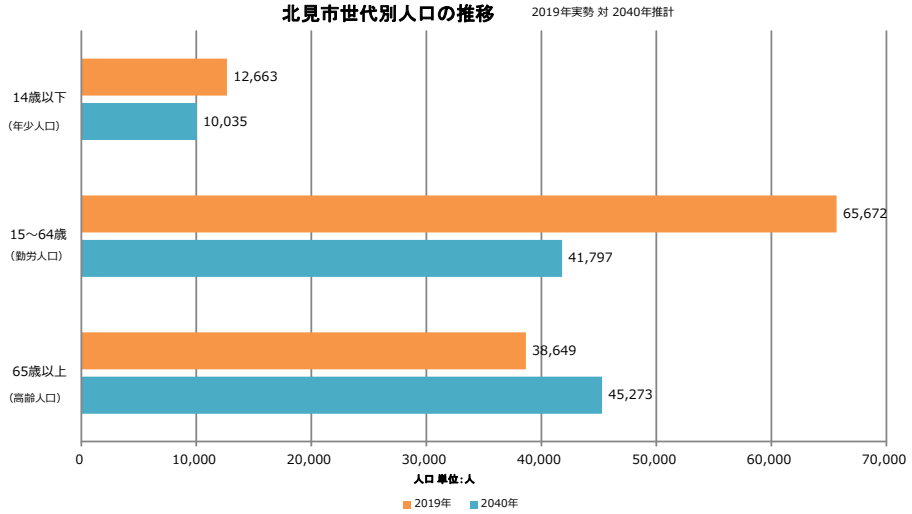
上記のような現状を受け止め、将来に向かっての私たちの暮らしの変化や地域社会・行政の変容を想定し、「縮みの社会」に対応した「そこに住めば、豊かで、便利で、スマートな格好いい暮らしが手に入ると思える地域にする」議論が必要です。

協働の理念である「自分たちで出来ることは自分達で」に今一度、立ち返り、新しいコミニュティを創造しなければならいに時が迫っています。

（仮称）「北見市地域活性化懇話会」を立ち上げ、中心市街地での単位町内会の活性化など将来の課題に取り組みます。

そしてこの事は次のスエージ「行政の生産性向上」へと続きます。

議論の参考資料として「縮み社会への挑戦」、「ＭａａＳを活用した都市交通政策（案）」を別冊で添付します。

具体的な施策

（１）名称：　（仮称）北見市地域活性化懇話会
（２）構成：　単位町内会の役員や有志・まちづくり活動団体のリーダー・一般市民、そして高校生・大学生・ＪＣ会員など若い皆さん
（３）活動期間：　発足後、１年程度
（４）事務局：　北見市市民部環境部市民活動課
（５）語論の展開：
　Ａ）人口の将来推計を基に、地域社会や行政の変容を話し合う
　Ｂ）単位町内会の現状や未来課題の発見
　Ｃ）単位町内会が未来課題を解決するための新しい役割を創出し、地域に住む若い人や各世代の人々が積極的に参加できる、活動しやすい、単位町内会を創造する
　Ｄ）その単位町内会を指導したり、支援する仕組みを考える
　Ｅ）「行政の生産性向上」へと議論を進める
（６）議論の進め方：
　世話役を選出して世話役が中心に語論を進め、全体会議で情報を共有する
（７）報告書の提出
　上記の議論をまとめて報告書を北見市に提出する